

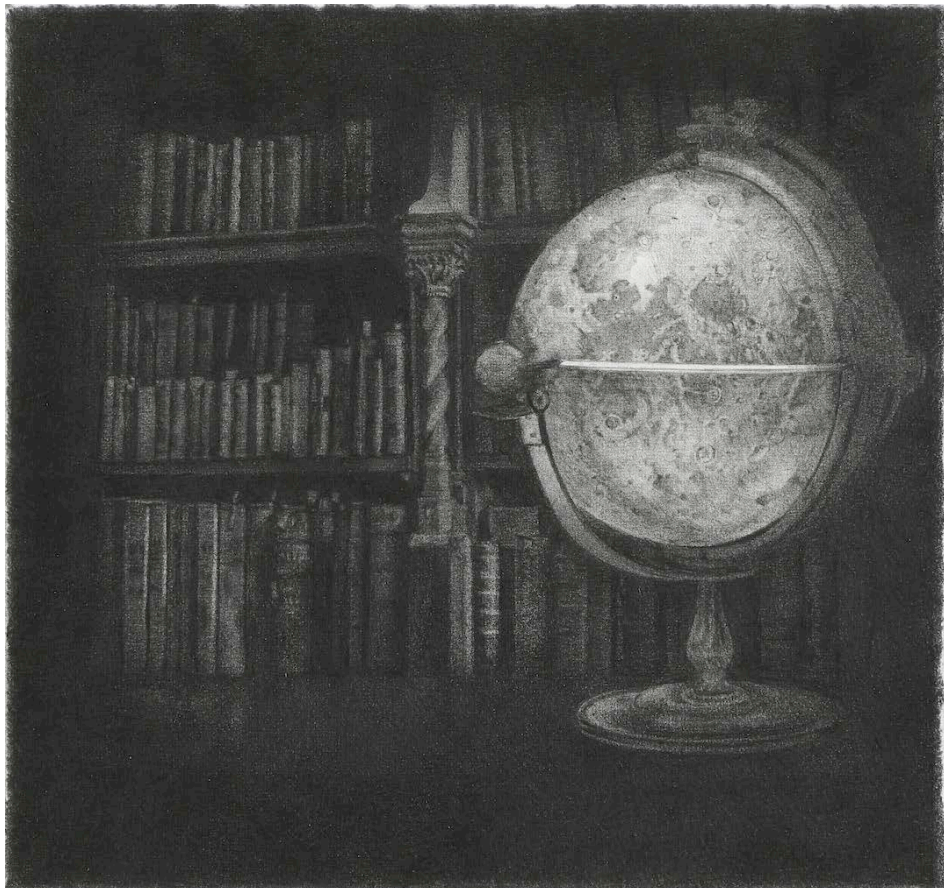
PRESS RELEASE

ギャラリー小柳 展覧会のご案内

寺崎 百合子

「Arks for Learning 図書館」

2017年1月21日(土) - 2月24日(金)



Moon Globe, 2016, black color pencil and carbon pencil on paper, 17.8 x 19 cm

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度ギャラリー小柳では、2017年1月21日（土）から2月24日（金）の会期にて寺崎百合子の個展「Arks for Learning 図書館」を開催致します。ギャラリー小柳では2010年の「音楽」展以来7年ぶり5度目の個展となる本展では、歴史ある重厚な図書館の内部や、書籍と同様に知を得るため古来重宝された天球儀や地球儀、月球儀を描いた新作ドローイング6点を展示致します。

展覧会の初日、1月21日（土）は、午後4時からライター・エディターの橋本麻里氏を迎え、「世界の似姿としての図書館と地球儀」をテーマに、寺崎百合子とトークイベントを行います。引き続き同日午後6時からオープニング・レセプションを行います。是非お越し下さいませ。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。ご掲載の際にはご一報いただけますようお願い申し上げます。

ギャラリー小柳

『Arks for Learning』——寺崎百合子

Arks for Learning とは、20年前、わたしに、図書館への旅の道案内をしてくれた本のタイトルです。

1995年、ギャラリー小柳での初めての個展『階段』を終えた時、次は本を描くと決めていました。本と本棚、そして図書館。図書館は、わたしにとって、物語の始まる場所です。階段と同じように、「ここから彼方へ」と誘ってくれる装置でした。

わたしが描きたいものは、人間の手で創られ、時間に磨かれた美しいものたちです。古い図書館は、収蔵品の本も器である建物も、二重に描きたいテーマです。黄金の暗闇に皮の背表紙が並び、螺旋階段や天球儀があり、精霊か人間か見分けのつかない司書に守られて、数百年もの間、静かに幾千幾万の言葉が積み重ねられた場所。そんな、前世で出会ったような図書館を描きたいと思いました。ボルヘスが「宇宙」と呼び、ルソーが「世界を手中に収めた」と信じ、マキャベリが「世間を忘れ悩みは消え去る」場所として帰って行った図書館。まだ人々が「永遠を超えて存在する」と信じた図書館。そんな図書館が、どこかにきっとあるはず。わたしはそんな図書館に出会うために、旅に出ることにしました。

まだ図書館の写真集などなく、インターネットも普及する前のことです。どこへ行けばいいのか見当もつかず、わたしは、ともかく海を渡り、世界で2番目に古い大学のある街、オックスフォードの石畳に降り立ちました。そこには確かに古い図書館がありそうです。でも、その街はどこもかしこも石の塀に囲まれて、部外者には容易に姿を見せてくれませんでした。石畳を歩き廻っても、どんな図書館がどこにあるのかさっぱりわからないのです。ただ、扉をたたく者には耳を傾けてくれる所でもありました。

勇気をだして扉をたたいてみると、街は一冊の本をわたしに手渡してくれました。それが“Arks for Learning”というオックスフォードにある図書館の写真集でした。この本を道案内に、わたしはひとつひとつ図書館を訪ね、その絵を描きました。そして、20年経った今でも描き続けているのです。

今では、図書館を舞台とする物語は小説ばかりではなく、アニメーション、マンガ、もちろん映画、ありとあらゆるジャンルにわたり、舞台装置としての図書館など、もはやクリシェと化したかのようです。図書館の画像も、『世界の図書館』、『世界の美しい図書館』、はたまた、『死ぬまでに行ってみたい図書館』まで、解説つき写真集が本屋に並び、本を買わなくてもネットで検索すれば世界中の古く美しい図書館の画像がゾロゾロとあらわれ、スクリーンショットでカチャッとすれば簡単に自分のものにできるほど身近なものになりました。もはや、図書館に出会うために古都を訪ね、重い櫓の扉をたたく必要もなくなったようです。そんな時代に、くり返し古い図書館の絵を描く意味があるのでしょうか。

ボルヘスの言うように、私達は、図書館の「不完全な司書」でしかないのですから、誤りを犯しがちな手が、紙に描きちらしながら記したこれらの震える粗雑な記号は、「聖なるものと人間的なものを隔てる距離を知る」手だてほどにはなっているかも知れないと、「くり返されれば、無秩序も秩序そのものになる」かも知れないと、「粹な希望」を抱くのです。わたし自身の孤独もまた華やぐように。

参考文献：

『伝奇集』パベルの図書館 J.L.ボルヘス著 鼓直訳 岩波書店 2016年5月16日発行

『図書館・愛読家の楽園』アルベルト・マンゲル著 野中邦子訳 白水社 2008年10月10日発行

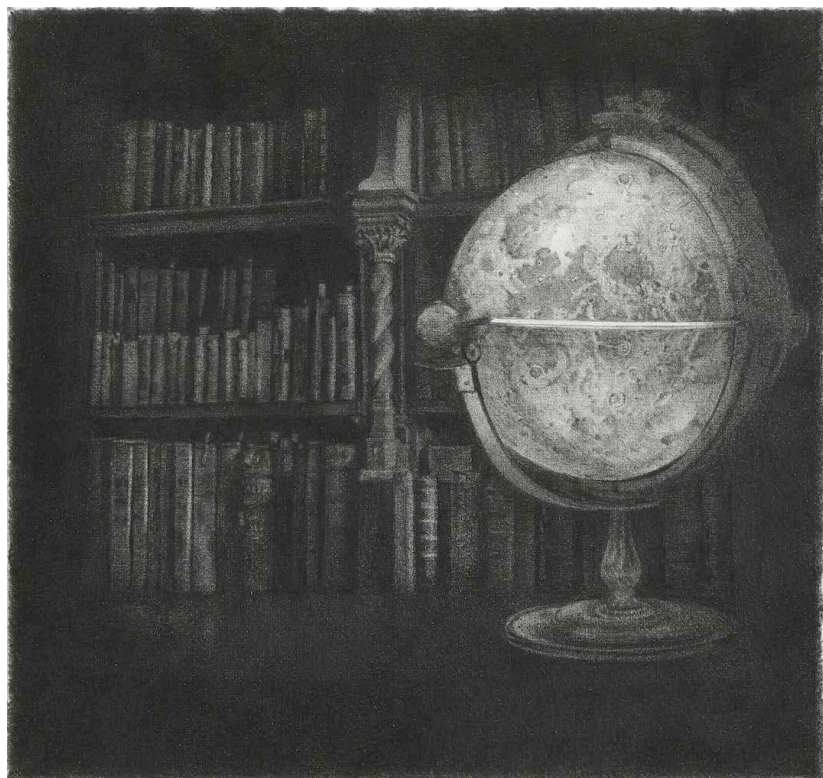
“Arks for Learning” Giles Barber The Oxford Bibliographical Society

『世界の図書館』河出書房新社

『世界の美しい図書館』パイインターナショナル

『死ぬまでに行きたい世界の図書館』笠倉出版社

【広報用図版】



Yuriko Terazaki

Moon Globe

2016

black color pencil and carbon pencil on paper

17.8 x 19 cm

© Yuriko Terazaki/Courtesy of Gallery Koyanagi

【作家略歴】

- 1952年 東京生まれ
1974年 米国ハワイ州立大学芸術学部卒業
1988-1989年 米国ニューヨーク滞在 (Asian Cultural Council 奨学金取得)
1998-1999年 英国オックスフォード滞在 (文化庁芸術家在外研修員として、New College, Oxford を拠点に図書館を取材。)

個展

- 2013年 「Yuriko Terazaki - drawings, Dmitry Badiarov- violins」 Badiarov Violins、デン・ハーグ、オランダ
2010年 「音楽」 ギャラリー小柳、東京
2007年 「文学、演劇、そして音楽/CASE」 ギャラリー小柳、東京
2004年 「BOOKS」 ギャラリー小柳、東京
1995年 「階段」 ギャラリー小柳、東京
1991年 J. Todd Galleries、マサチューセッツ、アメリカ

グループ展

- 2013年 「BOOK Chapter 1」 MA2 Gallery、東京
2007年 「線の迷宮 II—鉛筆と黒鉛の旋律」 目黒区美術館、東京
1997年 バードハウスアート展、大乘淑徳学園山中研修センター、山梨
1996年 「神奈川アート・アニュアル'96」 神奈川県民ギャラリー、神奈川
1993年 「KARUIZAWA DRAWING BIENNALE 1993」 脇田美術館、長野
(*94 丸亀市猪熊弦一現代美術館に巡回)

パブリックコレクション

- 高松市美術館、香川
目黒区美術館、東京

著書

- 『英国オックスフォードで学ぶということ』 2004年 講談社

【展覧会概要】

作家名：寺崎 百合子（読み：てらざき ゆりこ）

展覧会名：Arks for Learning 図書館

会期：2017年1月21日（土）～2月24日（金）

1月21日（土）

16:00～17:30 トークイベント 受付開始 15:30

橋本麻里（ライター・エディター）× 寺崎百合子

「世界の似姿としての図書館と地球儀」をテーマに、橋本麻里氏と作家の寺崎百合子
が対談致します。

*先着 40名様まで座席のご予約を承ります。

18:00～20:00 オープニング・レセプション

開廊時間：11:00～19:00 日月祝は休廊

会場：ギャラリー小柳

東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

交通：東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7番出口より徒歩1分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9出口より徒歩5分

URL：<http://www.gallerykoyanagi.com>

お問い合わせ／トークイベントご予約／写真請求先：ギャラリー小柳（担）善名／清水

電話 03-3561-1896 | メールアドレス mail@gallerykoyanagi.com